

## ♪音楽センター 柴崎和圭アコーディオン教室演奏発表会 2010 ぶらり訪問記♪

日 時 2010年6月27日(日)13:30 開演  
会 場 新宿区立 牛込笹塚区民ホール  
講 師 柴崎 和圭

日本列島、南と北が逆転したように九州よりも北海道の方が気温が高い日が続いている蒸し暑い1日でしたが、会場へ向かう途中では紫陽花が行きかう人の目を楽しませ、いっとき暑さを忘れさせてくれました。

都営地下鉄大江戸線「牛込神楽坂」駅で下車し地上へ出て右側の建物が区民館でした。会場は徒歩 1 分の大変便利のよい場所にありました。

プログラムは途中 10 分間の休憩を挟んで二部に分かれていて独奏が 31 曲、重奏が 2 曲、最後に合奏と合計 34 のステージで構成されていたので、終了まで 3 時間ほどかかりました。

独奏では 31 名の生徒が次々に演奏します。習いはじめてまだ間もない方もいたと思うのですが、ピアノやエレクトーンの経験があるので皆さん良く指が動いています。また、舞台の後ろと左右に置かれた反響板の影響も有ったかとは思いますが、少々のミスタッチはあってもしっかりした音とダイナミックな演奏で会場の後ろまでよく通っていました。「そこはジャバラをもっと使ってもっと大きな音を出していいんだよ」と講師、柴崎和圭先生の声が聞こえてくるような演奏が沢山ありました。また、細かい音にも丁寧な音づくりが出来ているのに感心します。

若い演奏者が多いので、将来が大いに楽

しみな教室です。生徒一人ひとりが自立しているのでしょうか、自分で編曲している方がふたりいました。

柴崎先生が最後のあいさつで言われていた「一人ひとりの人生があり、一人一人の音楽がある・・・」という言葉が今日の演奏会を言い表していたように思います。

変わったところでは、「マッティナータ」を熱唱しながら演奏した方がいました。(写真はその一コマ)これもすごいと思いました。



エンディングとなった「エディットピアフ・メドレー」は、今年 3 月にアコーディオンオーケストラ受講生を募集し、この日の本番に向けて 5 回ほど練習してきたものです。このオーケストラの仕上がりは今日のプログラムの中の楽しみの一つでした。

30 人近い演奏者で「回転木馬・バラ色の人生・など」のシャンソンメドレーをアコーディオンだけでオーケストラのようにいくつものパートに構成されて演奏します。柔らかい音づくりと、クライマックスのフォルテッシモの場面で音が一つになり指揮者の手が頭上高く上がったとき演奏者が指揮者を見上げ「やった、決まった」と笑顔を見せたあの一瞬がいまでも目に浮かびます。

写真下はアコーディオンオーケストラ「エディット・ピアフ・バリエーション」の演奏風景。

(乙津:記)



